Architectural Institute of Japan

日本建築学会計画系論文集　第489号，113-119，1996年11月
J. Archit. Plann. Environ. Eng., AIJ, No. 489, 113-119, Nov., 1996

長野県における野外舞台建築物の保存・活用に関する住民意識

—野外舞台建築に関する計画的研究　その3—

THE INHABITANTS' CONSCIOUSNESS OF THE PRESERVATION AND UTILIZATION OF OUTDOOR STAGE "PLAYHOUSE" IN NAGANO PREFECTURE

A systematic study of outdoor stage "playhouse", 3

山岸明浩*，山下恭弘**，松本直司***
Akihiro YAMAGISHI, Yasuhiro YAMASHITA and Naoji MATSUMOTO

The purpose of this study is to describe the inhabitants' consciousness of the preservation and utilization of outdoor stage "playhouse" in Nagano prefecture. The outdoor stage is divided into two classes, one is active (Area−A) and the other is passive (Area−B), about preservation and utilization. The inhabitants' consciousness was invetigated in Area−A and Area−B from October to December in 1990. The results are as follows;
1) The rate of recognition of outdoor stage was higher in Area−A compared with Area−B.
2) Mainly the inhabitants paid a visit to the outdoor stage at the time of entertainments such as the *kabuki*, performance, *karaoke* and so on.
3) The preserved and utilized activities was higher in Area−A than in Area−B, and inhabitants showed a stronger disposition to preserve and utilize outdoor stage in Area−A.
4) In the future the mean needs to pick up inhabitants' interest in entertainments and to make a chance of a visit to outdoor stage at the time of entertainments.

Keywords *: outdoor stage, inhabitants' consciousness, preservation, utilization, questionnaire*

野外舞台，住民意識，保存，活用，アンケート調査

1．はじめに

現在，長野県は1998年に開催される冬季オリンピックを契機に，高速交通網や各種公共施設などのインフラストラクチュアの整備が急速に行われている。これらの開発は地域の活性化や生活上の利便性をもたらし，地域住環境を変容させつつある。この様な変化の中，年々減少しつつある伝統的な建築物をどの様に保存し，活用するのかを考えることは重要な課題である。

筆者らはこれまでに，松崎らによる調査[1]を参考に，長野県内に数多く現存する野外舞台建築物に着目し，これらの実態調査を実施し，保存・活用の観点から形態的な分類を行った[2)3)]。その結果，野外舞台建築物が保存・活用されるためには，建築物の歴史的価値の保護とともに，地域住民の意識や伝統的芸能の継承が必要であることが示唆された。これらの結果を背景に，本研究は地域住民の立場から県下に現存する野外舞台建築物の保存・活用に関する意識について明らかにすることを目的としている。本研究においては，1)長野県下において現地調査を実施した145ヶ所の野外舞台の内，文化財に指定され現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が積極的に行われている舞台と文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていない舞台に分類し，両地区に居住する住民の野外舞台に対する意識について比較検討を行い，2)この地域住民の意識の比較を背景に，野外舞台保存・活用に関する住民意識の要因構造について考察する。

2．調査内容

2.1 調査対象の選出

野外舞台建築の保存・活用には，地域住民の意識や活動が深く関連していると考えられる。そこで，文化財に指定され現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が行われている舞台と文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていない舞台の間には，地域住民の野外舞台に対する意識の上でどの様な違いが認められるのかについて考察を行うため，野外舞台の分類を行った。これまでに現地調査を行った野外舞台の内，文化財に指定さ

* 信州大学工学部社会開発工学科　助手・工修　Research Assoc., Dept. of Architecture and Civil Engineering, Faculty of Engineering, Shinshu Univ., M. Eng.
** 信州大学工学部社会開発工学科　教授・工博　Prof., Dept. of Architecture and Civil Engineering, Faculty of Engineering, Shinshu Univ., Dr. Eng.
*** 名古屋工業大学社会開発工学科　教授・工博　Prof., Dept. of Architecture, Urban Engineering and Civil Engineering, Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng.

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

れ現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が積極的に行われている舞台をA分類，文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていない舞台をB分類[注1)]とし，調査対象とする野外舞台を選出した。調査対象とする野外舞台の選出には，前報[1)2)]における現地調査の際に行った利用状況に関する聞き取り調査結果に基づき分類を行い，地域的な偏りが生じないように配慮した。調査対象とした野外舞台の位置を，図－1に示す。各分類において調査対象とした舞台の名称と所在地を以下の通りである。

【A分類】

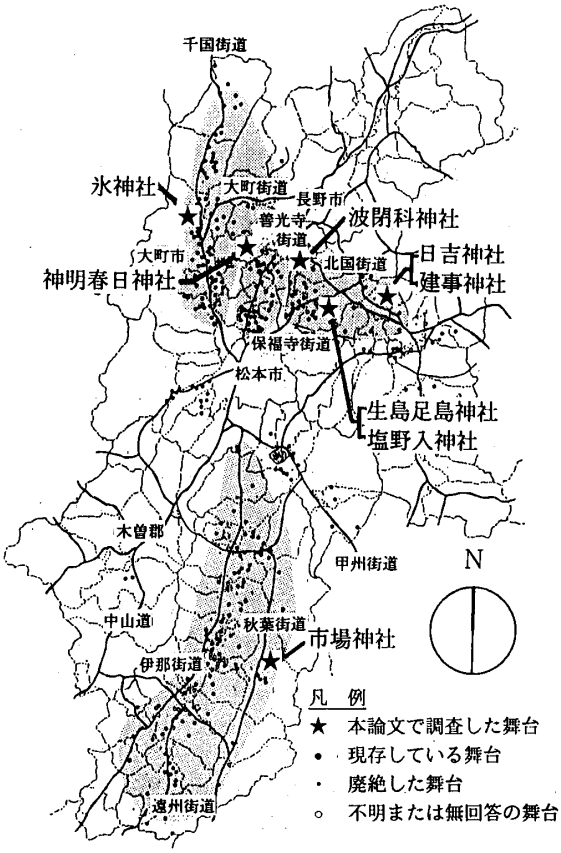
- 市場神社　　下伊那郡大鹿村塩字塩河
- 日吉神社　　小県郡東部町祢津東町
- 建事神社　　小県郡東部町祢津西町
- 生島足島神社　　上田市下の郷

【B分類】

- 神明春日神社　　上水内郡信州新町大字左右
- 氷神社　　大町市大字平中綱
- 波閉科神社　　更級郡上山田町大字上山田
- 塩野入神社　　上田市舞田

2.2 調査方法

地域住民への意識調査は，調査対象とした野外舞台のある地域において，平成2年10月20日から12月22日の期間に実施した。調査を実施した各地域の世帯数と人口，アンケート配布数，回収数および回収率を表－1に示す。調査対象とした地域は，野外舞台を含むかたちで集落を形成しており，アンケート調査はこの集落に対して行った。集落の規模は，前報[3)]での現地調査より，100世帯前後であったことから全数調査に近い値となるようにサンプリング数を70世帯とした。但し，神明春日神社と氷神社の位置する集落は，世帯数が少ないためにサンプリング数を50世帯とした。表中に示した各地域世帯数および人口は，野外舞台の位置する集落が属する行政区分単位の地域での世帯数であり，実際の集落の世帯数よりは大きな値となっている。アンケートの配布方法は，調査員が調査対象とした野外舞台の位置する集落に赴き，野外舞台周辺の各世帯から順に調査への協力依頼を行い，同意の得られた世帯へアンケート用紙を配布した。アンケートの回収は，数日後調査員が再度現地に赴き行った。アンケート配布数は全体で520部であり，回収数は461



注 1)図は，前報[3)]で示した野外舞台分布図中に，本論文で調査を行った野外舞台の位置を示した。
2)日吉神社と建事神社及び生島足島神社と塩野入神社は，図の縮尺上同じポイントで示した。

図－1　調査対象とした野外舞台建築の位置

表－1　調査地域の概要とアンケート配布・回収状況

分類	神社名	所在地	配布日	回収日	地域世帯数*1	地域人口*2	配布数	回収数	回収率
A分類	市場神社	下伊那郡大鹿村塩字塩河	10月20日	10月22日	135	330	70	62	88.6%
	日吉神社	小県郡東部町祢津東町	12月15日	12月17,21,22日	104	387	70	69	98.6%
	建事神社	小県郡東部町祢津西町	12月15日	12月17,21,22日	76	275	70	65	92.9%
	生島足島神社	上田市下の郷	12月14日	12月17,21,22日	521 *3	1,498	70	68	97.1%
B分類	神明春日神社	上水内郡信州新町大字左右	12月16日	12月18,19日	51	196	50	34	68.0%
	氷神社	大町市大字平中綱	12月16日	12月18,19日	67	230	50	45	90.0%
	波閉科神社	更級郡上山田町大字上山田	12月14日	12月17,21,22日	106	301	70	62	88.6%
	塩野入神社	上田市舞田	12月14日	12月17,21,22日	175	530	70	56	80.0%
合計							520	461	88.7%

（アンケート調査は，平成2年に実施）

注）*1地域世帯数は，調査を行った野外舞台の位置する集落が属する行政区分単位の地域における世帯数。
*2地域人口は，調査を行った野外舞台の位置する集落が属する行政区分単位の地域における人口。
*3下の郷地区は，町村合併により行政区分上の範囲が広く，地域世帯数が大きくなっている。前報[3)]の現地調査資料より，野外舞台の位置する集落の世帯数をみると，115世帯であった。

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

部となり，回収率は全体で88.7%と高い値であった。アンケートの内容は，①意識調査対象者の属性に関する項目，②野外舞台に対する地域住民の認知に関する項目，③地域住民における野外舞台の利用経験とその内容に関する項目，④日常生活における神社の利用と日常生活に対する満足度に関する項目，⑤野外舞台の保存・活用に対する住民の活動と意向に関する項目であった。

3．野外舞台の保存・活用に関する地域住民の意識実態

文化財に指定され現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が積極的に行われている舞台の位置するA分類の地域と，文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていない舞台の位置するB分類の地域での，野外舞台保存・活用に関する意識の実態について比較を行う。

3.1 意識調査対象者の属性

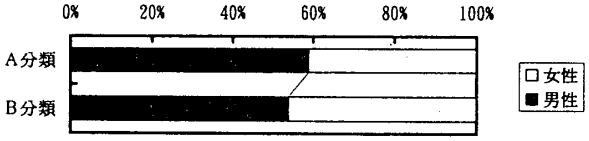
意識調査を行ったA分類とB分類の地域における居住者属性を図－2から図－4に示す。回答者の性別は，A，B分類とも男性割合が女性に比べてやや高く，A分類ではB分類よりも5%程度男性の比率が高くなっていた。年齢は，A，B分類とも30～59歳以下の回答者は全体の約半数を占め，次いで60歳以上の回答者が両分類とも40%程度を占めていた。A分類ではB分類に比べ13～29歳以下の回答者の割合が5%程度高く，逆に60歳以上の回答者の比率は5%程度低くなっていた。回答者の在住年数は，A，B分類ともに幅広く在住年数が分布する結果となった。

以上より，A分類とB分類の居住者属性を比較すると多少の違いはあるものの，全体的には極端な差は認められなかった。

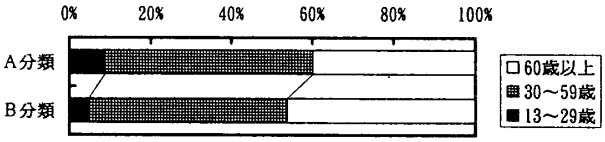
3.2 野外舞台に対する地域住民の認知

野外舞台の存在する地域に居住する住民が，どの程度野外舞台の存在を認知しているのかについて把握を行う。図－5，6に，舞台の存在および場所を知っているか否かについて，A，B分類の地域毎に集計した結果を示す。舞台の存在に対する認知については，A分類の地域でほぼ100%の住民が「よく知っている」または「聞いたことがある」との回答であった。B分類の地域においては，約90%の住民が「よく知っている」または「聞いたことがある」との回答であるが，「よく知っている」との回答はA分類の地域に比べると20%程度低くなっていた。また，B分類の地域においては，「知らない」との回答が約10%あった。舞台の場所に対する認知についても，舞台の存在に対する認知とほぼ同様な傾向が認められ，A分類とB分類の地域において舞台に対する認知の度合いに違いが生じていると考えられる。この様な違いが生じる要素として自宅から舞台までの距離が考えられる。図－7に，住民が感じている自宅から舞台までの距離感について分類別に集計した結果を示す。A分類においては「近い」との回答は全体の約70%であり，B分類では約60%であった。逆に「やや遠い」，「遠い」との回答は両地域とも8%程度となっていた。図－8に，実際に自宅から舞台まで行くのに要する時間を示す。A分類においては9分以内までの回答が全体の約70%，B分類では約75%となり，ややA分類の方が舞台までに要する時間は長くなっていたが，顕著な差は認められなかった。

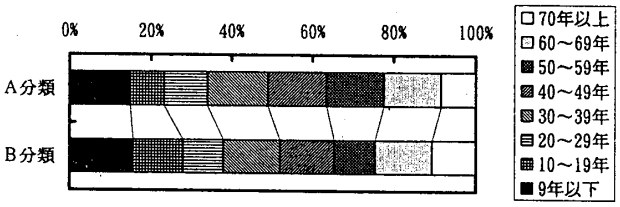
以上より，野外舞台に対する地域住民の認知についてA分類とB分類の地域における住民の意識を比較すると，B分類に比べA分類において野外舞台に対する認知の度合いは高く，これと居住場所から舞台まで要する実際の



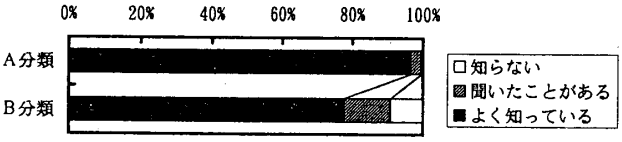
図－2　回答者の性別



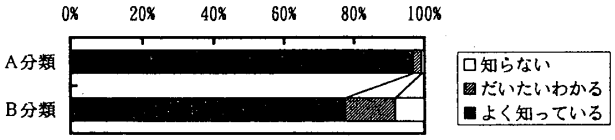
図－3　回答者の年齢



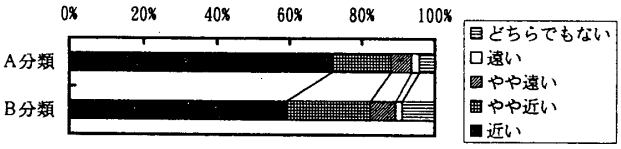
図－4　回答者の在住年数



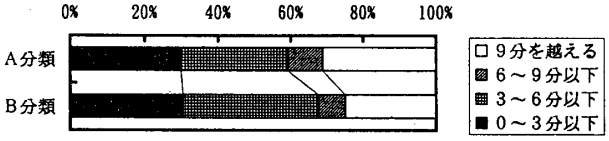
図－5　野外舞台の存在に対する認知



図－6　野外舞台の場所に対する認知



図－7　自宅から野外舞台までの距離感



図－8　自宅から野外舞台までに要する時間

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

距離との関係は小さいと考えられる。

3.3 地域住民の野外舞台の利用経験とその内容

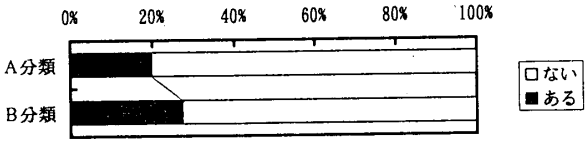
地域住民自身が，実際に野外舞台をどれくらい利用した経験があり，どの様な利用をしたことがあるのかについて地域の分類別に比較を行う。図－9，10に，住民自身の舞台利用経験の有無と利用経験の内容について示す。住民が自ら舞台を使用した経験は，A，B分類の地域ともに全体の30%以下と低い値を示した。B分類では，A分類に比べ8%程度舞台を利用の経験があるとの回答が多い結果となった。これは，A分類とした野外舞台は文化財に指定されており，日常的には地域住民が気軽には利用しにくいことが考えられる。舞台利用経験の内容についてみると，A分類では「歌舞伎」との回答が他の項目に比べ顕著に多く，次いで「芝居」や「演芸」，「カラオケ」などの利用経験者が多くなっていた。B分類では「演芸」，「カラオケ」などの利用経験者が多く，伝統芸能的な利用よりも祭などの余興的な利用項目において，経験者の度数が高くなっていた。

次に，地域住民の野外舞台利用に関連して，舞台で行われる伝統的芸能や余興などの催し物の見物に関して住民意識の地域比較を行う。図－11に，歌舞伎に対する地域住民の興味の度合いについて示す。A分類において歌舞伎に対する興味について「かなりある」，「少しある」との回答は全体の約58%を占め，半数以上の住民が歌舞伎に対し興味があることが分かる。B分類では歌舞伎に対する興味について「かなりある」，「少しある」との回答は約40%であり，A分類に比べ低い割合となっていた。また，B分類においては「歌舞伎に対する興味はほとんどない」との回答は30%程度となっていた。図－12に，野外舞台で歌舞伎や余興などの催し物の見物経験の有無について示す。A，B分類の地域ともに催し物を見物したことのある住民は全体の半数以上となっていたが，A分類ではB分類に比べ約20%高い80%程度の住民が催し物見物の経験を有していた。これは，A分類では現在も舞台の活用が積極的に行われていることによると考えられる。図－13に，野外舞台で行われる催し物の見物経験の内容について示す。A分類では「歌舞伎」の見物経験者が顕著に多い結果となった。B分類ではA分類に比べると野外舞台で行われる催し物見物の経験者の度数は低く，その内容は「演芸」，「のど自慢」との回答が多くなっていた。

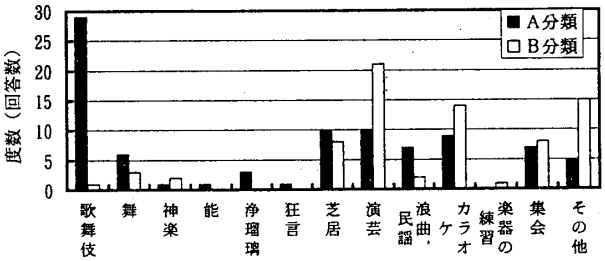
以上より，A分類とB分類の地域における野外舞台の地域住民の利用経験は，両分類とも地域住民自ら利用するよりも，舞台で行われる催し物の見物といった利用経験が多いことが明らかにされた。A分類とB分類を比較すると，A分類においては住民自身の利用経験の内容，催し物の見物経験の内容ともに「歌舞伎」の経験者が顕著に多くなり，その度数もB分類に比べ高くなっていた。B分類では，「演芸」，「カラオケ」，「のど自慢」といった余興的な利用および催し物見物の経験者が多く，その度数はA分類に比べ低くなっていた。この様なことから，伝統的芸能や祭りの余興の場などとして野外舞台を積極的に活用することにより，地域住民自身の舞台利用あるいは催し物見物の経験者が増加すると考えられる。

3.4 日常生活における神社の利用と満足度

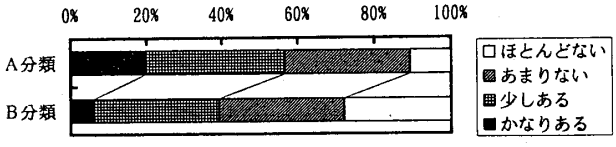
地域住民の日常生活において野外舞台を含めた神社が，どれくらい利用され，どれほどの意味あいをもっているのかについて検討する。図－14，15に住民が神社を利用する頻度[注2)]とその内容について示す。日常生活における神社の利用とその内容においては，A，B分類の地域による違いは顕著ではなかった。両分類とも利用の頻度では，「ある」または「時々ある」との回答は全体の80%程度であり，その内容は「参拝」が最も多く，次いで「散歩」となっていた。図－16に日常生活における神社



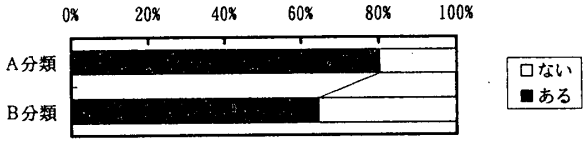
図－9　住民自身の野外舞台使用の経験の有無



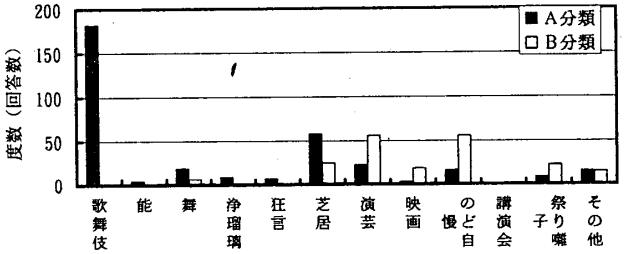
図－10　住民自身の野外舞台使用経験の内容



図－11　地域住民の歌舞伎に対する興味



図－12　野外舞台で行われる催し物の見物経験の有無



図－13　野外舞台で行われる催し物の見物経験の内容

NII-Electronic Library Service

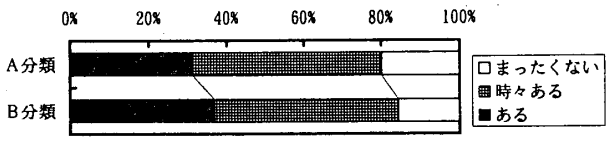
Architectural Institute of Japan

の意味あいを示す。A分類においては「どちらでもない」との回答が最も多く，B分類では「やや意味がある」との回答が最も多くなっていた。両分類ともに「意味がない」側の回答は少数となっていた。図－17に各地域の日常生活に対する満足度について示す。A，B分類ともに「やや満足」との回答が最も多く，次いで「どちらでもない」，「かなり満足」との回答が多くなっていた。

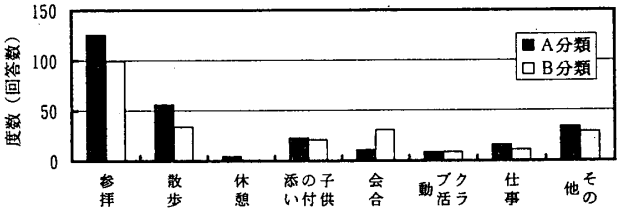
以上より，日常生活における神社の利用および日常生活に対する満足度においては，A分類とB分類の間には顕著な差は認められなかった。両分類ともに日常生活において神社は「参拝」場所として多くの住民に利用されており，日常生活に対する満足度は満足側にあることが明らかにされた。

3.5 野外舞台の保存・活用に対する住民の活動と意向

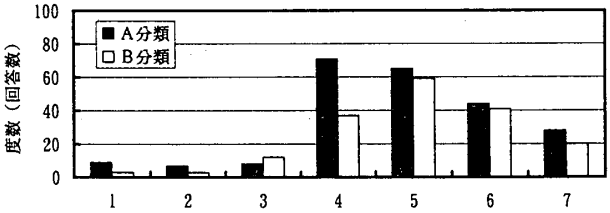
前節までにおいては，性格の異なる舞台を有する地域住民の野外舞台に対する認知，利用および日常生活における神社の利用と満足度の実態について比較を行った。本節では，これらの結果を背景に地域住民が野外舞台の保存・活用に対しどの様な活動を行い，どの様な意向をもっているのかについて検討を行う。図－18，19に，各地域住民の野外舞台の保存・活用に対する活動の有無とその内容について示す。A分類の地域においては舞台の保存・活用の活動を行ったことのある住民は全体の40％程度存在するのに対し，B分類では約20％となっていた。野外舞台の保存・活用に対する活動の内容では，両分類ともに「寄付金の援助」が最も多く，A分類においては「舞台の設営」の頻度も多くなっていた。図－20に，野外舞台の保存・活用に対する賛否を示す。両分類とも舞台の保存・活用に対しては半数以上の住民が賛成しており，反対との回答は少数であった。A分類ではB分類に比べ20％程度「賛成」との回答の比率が高く，約80％を占めていた。B分類では「わからない」との回答がA分類に比べ多くなっていた。これは，A分類のような野外舞台が文化財に指定され現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が積極的に行われている地域においては，野外舞台の保存・活用に対して住民は賛成との意向が強くなるが，B分類のような文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていない地域においては，野外舞台の保存に反対ではないが，保存・活用の意味が不明確であることによるものと考えられる。図－21に，野外舞台の保存・活用が必要な理由について示す。両地区ともに「文化，歴史の継承」との回答が最も多く，次いで「地域の活性化」となり，A分類の地域では「村外への宣伝」



図－14　日常生活における神社利用の頻度

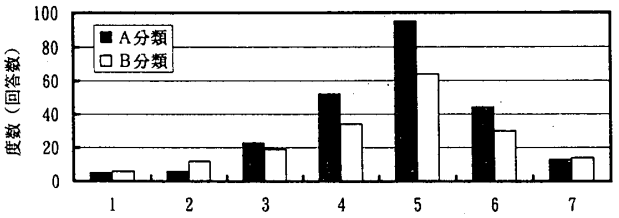


図－15　日常生活における神社利用の内容



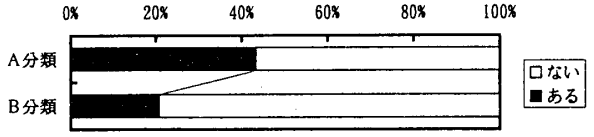
注)1:非常に無意味 2:かなり意味がない 3:やや意味がない 4:どちらでもない
5:やや意味がある 6:かなり意味がある 7:非常に意味がある

図－16　日常生活における神社の意味合い

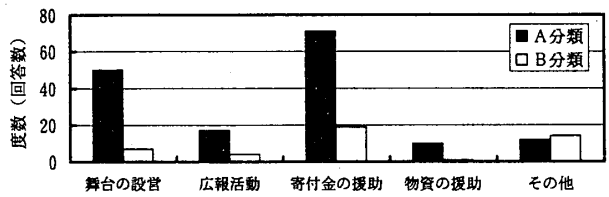


注)1:非常に不満足 2:かなり不満足 3:やや不満足 4:どちらでもない
5:やや満足 6:かなり満足 7:非常に満足

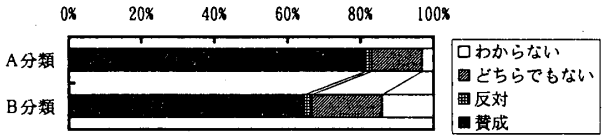
図－17　日常生活に対する住民の満足度



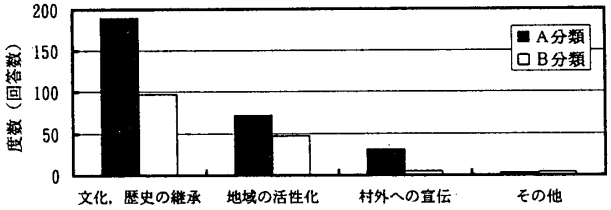
図－18　野外舞台の保存・活用に関する活動の有無



図－19　野外舞台の保存・活用に関する活動の内容



図－20　野外舞台の保存・活用に対する住民の賛否



図－21　野外舞台の保存・活用に「賛成」とする理由

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

との回答も多くなっていた。

以上より，野外舞台が文化財に指定され現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が積極的に行われているＡ分類の地域では，文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていないＢ分類の地域に比べ，野外舞台の保存・活用に実際に参加する住民の割合が多く，保存・活用の意向も強いことが明らかとなった。

4．野外舞台の保存・活用に関する意識の要因構造

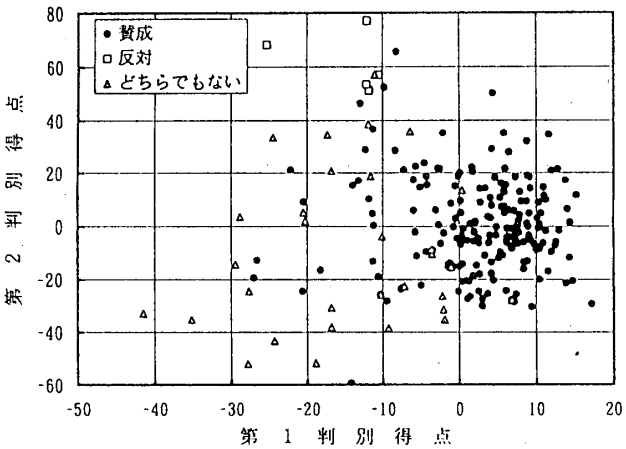
地域住民の野外舞台建築の保存・活用に対する賛否が，どの様な要因に影響されているのかについて明らかにするために，数量化Ⅱ類[4) 5)]を用い考察する。

分析に使用した変数は，外的基準を野外舞台の保存・活用に対する賛否とし，説明変数はアンケート項目の中から変数間の相関，反応数および項目のバランスを考慮し12アイテム，39カテゴリーの選出を行った。表－2に数量化Ⅱ類の分析結果を，図－22に数量化Ⅱ類分析の結果から得られたⅠ，Ⅱ軸に対するサンプルの判別得点の分布を示す。各サンプルに対する判別得点の分布図より，野外舞台の保存・活用に「賛成」であるグループと「反対」であるグループはⅠ，Ⅱ軸の双方において分類されており，「賛成」であるグループと「どちらでもない」とのグループはⅠ軸に関して分類されていた。表－2より各軸に対し高い寄与を示す変数についてみると，Ⅰ軸においては「舞台の場所に対する認知」と「歌舞伎に関する興味の度合い」であり，Ⅱ軸では「舞台の場所に対する認知」，「歌舞伎に対する興味の度合い」，「芸能などの催し物見物の有無」となっていた。この様なことから，野外舞台の保存・活用に対し「賛成」である住民は，歌舞伎に対する興味があり，野外舞台で行われる芸能などの催し物見物の経験もあり，舞台の場所もよく認知しているような住民像が推測される。一方，野外舞台の保存・活用に「反対」である住民は，サンプル数が少数のため断言は出来ないが，歌舞伎に対する興味は薄く，催し物などの見物経験もなく，舞台の場所もあまり認知していないと考えられる。また，野外舞台の保存・活用に関して「どちらでもない」との中立的な立場の住民は，歌舞伎に対する興味は薄いが，芸能などの催し物見物の経験はあり，舞台の場所も認知しているような住民像が推察される。

以上のようなことから，野外舞台建築の保存・活用において重要な事項として，歌舞伎といった伝統的芸能や余興的な催し物などにおいて，地域住民の興味を引き出すような工夫とともに，より多くの住民が野外舞台で開催される催し物に接する機会を設けることが必要であると考えられる。また，野外舞台の保存・活用に関し「反対」との住民の回答は少数であったことから，「どちらでもない」といった中立的な意見の住民に対しての野外舞台の保存・活用に関する働きかけが必要であると考えられる。

表－2　数量化Ⅱ類分析結果

アイテム	カテゴリー	反応数	Ⅰ軸 ノーマライスドスコア	Ⅰ軸 レンジ（寄与率）	Ⅰ軸 偏相関係数	Ⅱ軸 ノーマライスドスコア	Ⅱ軸 レンジ（寄与率）	Ⅱ軸 偏相関係数
場所の認知	1. よく知っている	225	0.92	18.2	0.251	2.76	54.7	0.247
	2. だいたい分かる	12	-17.30	(18.74%)		-51.89	(23.61%)	
自宅から舞台までの距離感覚	1. 近い	178	-0.28	6.8	0.097	0.55	20.3	0.093
	2. やや近い	46	2.34	(7.00%)		2.79	(8.76%)	
	3. やや遠い	13	-4.42			-17.49		
自宅から舞台までに要する時間	1. 0～3分以下	75	-1.11	4.8	0.100	5.35	17.4	0.149
	2. 3～6分以下	85	0.75	(4.94%)		-7.04	(7.51%)	
	3. 6～9分以下	24	-3.07			-9.38		
	4. 9分を越える	53	1.75			7.96		
舞台の利用経験	1. ある	55	-0.28	0.4	0.010	3.72	4.9	0.044
	2. ない	182	0.08	(0.41%)		-1.12	(2.11%)	
芸能等見物の有無	1. ある	190	0.72	3.7	0.095	-6.33	31.9	0.263
	2. ない	47	-2.94	(3.81%)		25.59	(13.78%)	
歌舞伎に関する興味の度合	1. かなりある	39	5.34	17.9	0.347	4.06	34.4	0.232
	2. 少しある	87	4.10	(18.43%)		0.03	(14.85%)	
	3. あまりない	77	-1.78			-11.99		
	4. ほとんどない	34	-12.60			22.40		
神社を利用する頻度	1. ある	90	1.40	8.4	0.184	-7.47	13.6	0.133
	2. 時々ある	112	1.06	(8.65%)		6.15	(5.87%)	
	3. まったくない	35	-6.99			-0.48		
日常生活での神社の意味合い	1. 無意味	18	-8.37	9.7	0.169	-2.20	5.1	0.046
	2. どちらでもない	55	-1.31	(9.99%)		-3.62	(2.20%)	
	3. 意味がある	164	1.35			1.45		
日常生活に対する満足度	1. 不満足	32	-5.28	8.1	0.156	-0.00	1.5	0.013
	2. どちらでもない	49	2.85	(8.34%)		-1.16	(0.65%)	
	3. 満足	156	0.18			0.36		
性別	1. 男性	139	0.90	2.2	0.068	-3.55	8.6	0.088
	2. 女性	98	-1.27	(2.27%)		5.03	(3.71%)	
年齢	1. 13～29歳	24	7.70	9.4	0.173	-11.32	13.7	0.080
	2. 30～59歳	87	-1.67	(9.68%)		-0.33	(5.91%)	
	3. 60歳以上	126	-0.31			2.38		
在住年数	1. 9年以下	43	0.91	7.5	0.149	-9.93	25.6	0.215
	2. 10～19年	28	1.16	(7.72%)		10.00	(11.05%)	
	3. 20～29年	20	1.21			-10.22		
	4. 30～39年	33	-0.98			-6.42		
	5. 40～49年	35	1.49			-3.28		
	6. 50～59年	25	-4.33			15.36		
	7. 60～69年	33	-4.21			14.94		
	8. 70年以上	20	-3.01			-9.93		
相関比				0.345			0.196	



図－22　各サンプルの判別得点の分布

5．まとめ

本研究では，長野県下に数多く現存する野外舞台建築の保存・活用に関して，その主体となる地域住民の意識の実態について明らかにした。本研究で得られた結果をまとめると以下の通りである。

１）文化財に指定され現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が積極的に行われている野外舞台（Ａ分類）のある地域においては，文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていない野外舞台（Ｂ分類）のある地域に比べ，野外舞台の存在，場所に対して住民の認知度は高くなっていた。

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

2）A分類とB分類の地域における野外舞台の地域住民の利用経験は，両分類とも地域住民自ら利用するよりも，舞台で行われる催し物の見物といった利用経験が多いことが明らかにされた。A分類とB分類を比較すると，A分類においては住民自身の利用経験の内容，催し物の見物経験の内容ともに「歌舞伎」の経験者が顕著に多くなり，その度数もB分類に比べ高くなっていた。B分類では，「演芸」，「カラオケ」，「のど自慢」といった余興的な利用および催し物見物の経験者が多く，その度数はA分類に比べ低くなっていた。この様なことから，伝統的芸能や祭りの余興の場などとして野外舞台を積極的に活用することにより，地域住民自身の舞台利用あるいは催し物見物の経験者が増加すると考えられる。

3）日常生活における神社の利用および日常生活に対する満足度においては，A分類とB分類の地域間には顕著な差は認められなかった。両分類ともに日常生活において，神社は「参拝」場所として多くの住民に利用されており，日常生活に対する満足度は満足側にあることが明らかにされた。

4）野外舞台が文化財に指定され現在も芸能が継続しかつ日常的に有効な利用が積極的に行われているA分類の地域では，文化財の指定はなく現在は日常的な利用が行われていないB分類の地域に比べ，野外舞台の保存・活用に実際に参加する住民の割合が多く，保存・活用の意向も強いことが明らかとなった。

5）野外舞台の保存・活用に対する地域住民の賛否について数量化II類を用い分析した結果，野外舞台の保存・活用において重要な事項として，歌舞伎といった伝統的芸能や余興的な催し物などにおいて，地域住民の興味を引き出すような工夫とともに，より多くの住民が野外舞台で開催される催し物に接する機会を設けることが必要であることが示唆された。また，野外舞台の保存・活用に関し「反対」との住民の回答は少数であったことから，「どちらでもない」といった中立的な意見の住民に対しての野外舞台の保存・活用に関する働きかけの必要性が見出された。

謝辞

本研究は平成 2年度戸嶋　進君の修士論文，昭和62年度の林　静君，昭和63年度の西田秀雄，中谷隆秀両君，平成 2年度山本秀樹君の卒業研究によって得られた成果を基に，データ整理，解析を行ったものであることを付記し深謝の意を表します。

注

1)B分類の野外舞台は，現在は日常的な利用はなされていないが，過去においては稀に伝統的芸能や祭りの際の余興の場などとして利用されたことがある。

2)アンケートでは，「1.ある　2.時々ある　3.まったくない」の順にカテゴリーを並べ，1～3にかけて利用の頻度が低くなるように設問を行った。

参考文献

1)松崎　茂：日本農村舞台の研究，刊行論文刊行会，昭和42年

2)山下恭弘，松本直司，谷口汎邦：長野県の野外舞台建築物の実態と保存，活用に関する調査－野外舞台建築に関する計画的研究　その1－，日本建築学会計画系論文報告集，第415号，pp.39～47，1990年9月

3)山岸明浩，山下恭弘，松本直司，谷口汎邦：長野県における野外舞台建築物の現状と形態的分類－野外舞台建築物に関する計画的研究　その2－，日本建築学会計画系論文報告集，第433号，pp.53～62，1992年3月

4)田中　豊，脇本和昌：多変量統計解析法，現代数学社，1985年

5)日本建築学会編：建築・都市計画のための調査分析方法，井上書院，1987年

(1996年1月10日原稿受理，1996年7月17日採用決定)

NII-Electronic Library Service